



## 「見えない神様のご計画」

～目に見えないものこそ真実である～

「キリストは、私たちの肉眼では見ることができない神と等しい方であり、神がこの世界をお造りになられる前から存在しておられた方である。」コロサイ1:15、「だから、私たちは見える一時的なものではなく、目に見えない永遠に至るものに心を留めるのである。」2コリント4:18、「あなた方は、イエス・キリストを肉眼で見たことはないが、愛している。現在も見えてはいないが、信仰により、言葉で言い表すことができないほどの栄光に輝いた喜びにあふれている。」1ペテロ1:8 [現代訳]

ヘブル人への手紙11章は有名な「信仰」について書かれている箇所です。「さて、信仰とは将来に起ることを確かなものとしてつかむ手であり、まだ見ていないものの確実な証拠を見る目である。」「[1節・現代訳]。

私たちは自分自身の人生の過去を見る時に、そこに確かに不思議な神様の御手があったことを覚える者です。しかし、自分の未来を見ようとしたときには、そこには何も見ることはできません。人間の不安を解消するために、現代の科学技術は発展し、天気予報であるとか、医学であるとか様々な分野で、人間の将来を知るためにそれらが発展してきました。しかし、どれだけ科学が発展したとしても、完全に人間の不安を解消するには至っていません。これからはその問題は解決できないでしょう。

「信仰」が与える価値として最も大きいのは、その将来の不安を解消することであると思います。目に見えない不確かな事柄について、信仰はその答えを与えます。それらを手で触るかのように、また、肉眼で見るかのようにしてつかむことができるからです。

イエス・キリストがこの地上に現れた時、ユダヤの人々は決して受け入れませんでした。なぜなら、目に見えない神様が目に見える有限な存在である人間として現れるということは決してありえないと考えていたからです。しかし、それは唯一の創造主なる神様を信じ切っていたユダヤ民族であったからそうだったのかもしれませんが、もし、私たち日本人のように神々を目に見える存在として表現し続けてきた民族であればどうだったでしょうか？しかし、それでも受け入れなかったかもしれません。しかし、そんなユダヤ人たちでも、また、日本人の中でも、この唯一の神、救い主なるイエス様を信じ従っている人々がいます。そして、その生き様を通して生ける神を示してきました。実際に人々が自らの人生の中で生ける神様を体験していくことを通して、信仰の世界がより確かなものとして、事実として、真実として、一人一人の心に理解を与えています。次は、来週ご奉仕くださる宮田四郎兄の証文からの抜粋です。

「仏教を通して、理屈から信仰に入った私ですが、真理は理屈ではなく、悔い改めと祈りを通して霊的に悟ることができて、それによって、妬みや憎しみなどのような罪の思いが取り除かれ、自由にのびのびと生活できる、と言うことを体験できました。」